

## 卒業生から手紙をもらいました

三月に入りました。昨年は三月二日から臨時休校が始まりましたので、昨年の今日はドタバタでした。卒業式だけは何とか挙行できましたが、感傷に浸る余裕もなく、昨年度の卒業生たちは巣立っていきました。

先日、うれしい手紙をもらいました。送り主はその昨年度の卒業生の一人です。元気で高校生活を送っているだけではなく、北中で学んだことを忘れずに、いや、生かしてがんばっていることがわかる素敵な文面でした。

「校長先生、お久しぶりです！先生にどうしてもお話ししたいことがあるのでお手紙を書いています。」

私は高校で日々勉強を頑張りながら高校生活を楽しんでいきます。自分の勉強のできなさに泣けてくることもありませんが、クラスの間が優しく教えてくれたり、先生方もわかりやすく教えてくださるので、何とか勉強についていくことができています。友達関係では、いろいろな地域の子に出会って新しい発見や考え方を知ることができて、毎日とても楽しいです。

私が高校生になって、中学時代に取り組んでいてよかったと思うことが二つあります。

一つ目は校長先生がおっしゃった『主体性』です。それは自分の意思で行動するという意味で、中三のときさまざまなことを通して、この『主体性』を学びました。

中学の時、私は早く学校に着いていたので、先生に勉強の質問をよくしていました。このときに質問するということを習慣にしていたので、今高校生になってからも、少しでもわからないと思ったら、先生に質問に行っています。一度習慣にしたことはずっと続けることができると気付きました。

二つ目は『あいさつ』です。私の高校はあいさつを大切にしています。中学の時から私は出会った人全員にあいさつをすることを目標にしていたので、がんばっていたことが今生かされていると思います。(後略)

中学生生活のクライマックスを感染予防のドタバタで迎えた昨年度の卒業生たち。「便りのないのはよい便り」と言いますが、やはりがんばっているということを知ることができるとうれしくなりますし、正直言ってほっとします。ましてや、今の頑張り元となっていてのが、中学時代の「主体性」や「あいさつ」だと言ってくれると、跳び上がりたい気分になります。

担任が卒業生から手紙をもらうことはあっても、校長がもらえるなどは夢にも思っていませんでした。「がんばっていることを伝えたい」と自信に満ちた自分を作り上げているからでしょうね。そう判断をしたのはこの生徒自身であり、これも一つの「主体性」であると私は思います。(三月一日 記)